

2-④ 基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに学習意欲を高める

取組 8-1	基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成（小・中学校）
--------	-------------------------------------

【担当所属：義務教育課 学校人事課】

1 現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の実施

小学校については、知識に関する問題、活用に関する問題ともに、全国平均を下回っています。中学校については、いずれも全国平均は上回っていますが、小・中学校共通して、特に、必要な情報を取り出して自分の考えを述べたり、考えた方法や理由を説明したりすることには、課題が見られます。

また、この調査では、質問紙調査を行っています。国語と算数・数学についての関心・意欲等は全国平均を上回っています。

＜平成25年度「全国学力・学習状況調査」結果：平均正答率、（ ）内は全国＞

小学校	国語A 61.3 (62.7)、	国語B 47.5 (49.4)
	算数A 76.4 (77.2)、	算数B 55.0 (58.4)
中学校	国語A 78.1 (76.4)、	国語B 68.8 (67.4)
	数学A 64.9 (63.7)、	数学B 42.8 (41.5)

(※A：主に知識に関する問題 B：主に活用に関する問題)

小学校	国語は好き 59.0 (57.9)、	算数は好き 69.4 (66.2)
	国語は大切 92.1 (91.0)、	算数は大切 92.8 (92.1)
中学校	国語は好き 59.1 (57.7)、	数学は好き 56.7 (55.5)
	国語は大切 90.2 (88.4)、	数学は大切 81.7 (80.5)

(2) 「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」の実施

本県では、「全国学力・学習状況調査」で実施していない社会や英語、音楽、図画工作・美術等の教科について、平成22年度と24年度に本県独自の学力調査として、筆記調査だけでなく、実技調査も行い、幅広く学力の状況を把握・分析しました。その結果、国語、算数・数学だけでなく、これらの教科についても、自分の言葉で説明したり、自分なりに工夫したりすることに課題が見られ、また、自分ではできると考えているが、実際にはできていない技能があることも明らかになりました。

(3) 「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業改善の推進

「全国学力・学習状況調査」や、本県独自の学力調査の結果分析を基に、本県の児童生徒において伸ばしたい資質・能力や、各教科の指導の基本を示した指導資料「はばたく群馬の指導プラン」を平成24年3月に作成し、全教員に配付しました。また、平成25年度は、小学校の13教科・領域で、平成24年度は中学校の13教科・領域で公開授業を行い、延べ約1,600人が参観しました。



(4) 指導体制（ぐんま少人数クラスプロジェクト）

さくらプラン・わかばプランによる群馬県独自の少人数学級編制により、学年の発達段階に応じた指導体制を充実させ、基礎学力の定着を目指しています。

学年		小学校						中学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
1学級 の人数 (人)	国の標準	35	40	40	40	40	40	40	40	40
	本県の指導体制	30	30	35	35	40	40	35	40	40
		さくらプラン						わかばプラン		

また、さくらプラン、わかばプランの対象とならない小学校5・6年生、中学生2・3年生では、算数・数学の授業での少人数指導を支援してきました。

2 課題

- (1) 児童生徒に基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図ること
- (2) 児童生徒に知識・技能を活用し課題解決できる力を育成すること

### 3 取組の方向

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けさせ、それらを日常生活と結び付けて活用し課題を解決していく思考力・判断力・表現力等を以下の取組を通じて育みます。
  - ① 発達段階に応じた少人数学級編制を推進するとともに、各学校の実態や課題に応じた学力向上計画に基づく指導体制を充実させます。
  - ② 「はばたく群馬の指導プラン」及び「はばたく群馬の指導プラン：実践の手引き」を活用した授業改善に取り組みます。

### 4 主な取組内容

- (1) 発達段階に応じたきめ細かな指導を充実させ、基礎学力の定着を図ることを目的とした本県独自の少人数学級編制や少人数指導を推進します。
- (2) 各学校が、これまでに以上に組織的・継続的に学力向上に取り組めるよう、学力向上委員会を充実させるとともに、学校の組織体制の強化を図るための教員を特別に配置します。
- (3) 「確かな学力」を育成するための校内研修の在り方や各教科の指導の手立て等、学力向上を図るための方策を学校全体で研究するための指定校を設置し、その成果を全県に普及します。
- (4) 「はばたく群馬の指導プラン」を活用して、年間1人1授業以上の公開授業の実施を推進します。
- (5) 学習内容の達成度を確認するための評価テストを作成し、小学校において活用できるようにします。
- (6) 外部有識者や市町村教育委員会等により組織する「確かな学力育成プロジェクト会議」を開催し、本県の学力向上の課題や今後の方向性、学力向上を推進するための具体的な施策について協議します。

### 5 達成目標

目標の概要	基準年度の状況(H25)	目標年度の状況(H30)
(1) 「全国学力・学習状況調査」における全国の平均正答率との差(小学校)	小6 -1.9	小6 +2.0
(2) 「全国学力・学習状況調査」における全国の平均正答率との差(中学校)	中3 +1.4	中3 +3.0

#### 《コラム》

#### 第2次群馬県初代県令 楫取素彦

優れた指導力で群馬県の教育の充実と産業の発展に大きな功績を残しました。特に教育分野に関しては県内に義務教育の理解を推進するとともに、小学校の建設を進め、就学率を当時の全国トップレベルにしました。さらに、幼稚園、中学校、女学校、師範学校等を整備し、教育環境を整えました。また、世界遺産登録を目指している「富岡製糸場」の存続や、現在全県的に取り組んでいる「東国文化推進」の中心となっている古墳をはじめとした歴史的価値ある多くの文化財の保全にも力を入れました。現在の本県教育の礎を構築し郷土の誇りとなる数多くのものを次世代に残した偉人の1人です。